

## ～京のあたりまえ～

日本人の心のふる里と言われ、全国の多くの人々から愛されつづける京都。

そんな京都を形成してきた京都人の発想と感性。それは、即ち「京都の魅力」そのものです。

千二百年の長い歴史の中にも京都が埋没することなく、今日まで息づいてきたのは京都人の知恵と申しましょうか、暮らしのルール（しきたり・作法）があったからだと思っています。

京都には、さまざまな「あたりまえ」があります。

「しきたり」「儀式作法」「年中行事」など。そしてそのいずれを取り出しても京都人の優しい感性が浮かび上がってきます。

激しく移り変わる現代社会ですが、どんなに時代が移り社会が変化しても、失くしてはいけないもの、それは人と人との温かいふれ合いであり人間としての優しい心です。

そんなところを、この＜京のあたりまえ＞から知り得ていただければ、私にとりまして望外の喜びです。

### < 経 歴 >

岩 上 力（いわがみ つとむ）

1947年 京都・宇治に生まれる。舞台芸術学院を経て劇団「新国劇」に入団。その新国劇時代から礼法の研究にいそしみ、1983年 儀式作法研究会を設立。爾来、各方面にて儀式作法教室の講師をつとめるとともに 作法コメンテーターとしてテレビ・ラジオに出演する。

現在 儀式作法研究会代表・NHK京都文化センター講師・京都儀礼作法塾主宰・ニッポン検定審議委員・京都検定講師・京都商工会議所経営セミナー講師・

主な著書：「京のあたりまえ」「京の儀式作法書」「京の宝づくし縁起物」他  
「なぜ招き猫はネコでなくてはならないのか？」ワニブックス新書

深草文化交流・講演会

日本の優しさ再発見  
**京のあたりまえ**  
～その心とならわし～

- \* 伏見からイメージするものといえは何でしょうか？
- \* 「きょうは、深草の集まりどすなあ」という京言葉の意味をご存知ですか？
- \* 伏見には、京のならわしの大切なものが残っています。

～ 共によろこび祝う、宮参りと出産祝～

お人の慶びごとを、共に喜ぶことに作法のころがあります。

- ◇ いつ、何処にお参りすればいいのでしょうか？
- ◇ 初着は、どうするのでしょうか？
- ◇ 額に書く文字に決まりがあるのでしょうか？
- ◇ 宮参りの扇は、何処で買い求めるのでしょうか？
- ◇ 母親は、行かないこともあるのでしょうか？
- ◇ 神前では、赤ちゃんをつねって泣かせるのはなぜでしょうか？
- ◇ なぜ、お祝いするのでしょうか？
- ◇ 何を、贈ればいいのでしょうか？
- ◇ どんな体裁、表書きにするのでしょうか？
- ◇ 水引は、なぜ結ぶのでしょうか？ 熨斗は、なぜつけるのでしょうか？
- ◇ どこで贈ればいいのでしょうか？
- ◇ 挨拶は？
- ◇ おため・おうつりというのは何でしょうか？